

施設名: () (保育所・幼稚園・こども園) ←いずれかに○

回答者氏名: () 回答者の保育歴: () 年

1. 施設全体についてお答え下さい。なお質問1-1～1-4に関しては、質問に対応する資料を添付していただくことで回答と代えていただいても結構です。

1-1. 施設全体の敷地面積: () m^2 ※面積の記入はできれば小数第一位程度までで結構です (記入例: 54.3 m^2)

1-2. 施設建物の階数: () 階建て建物の () 階～ () 階部分

1-3. 施設全体の延床面積 (各階の床面積の合計): () m^2

1-4. 今年度の学齢別の園児数とクラス数、各保育室の面積をご記入下さい。なお、学齢が複数クラスの場合は、平均の面積をご記入下さい。

0歳児: () 人 クラス数: () →1クラス当たり平均 () m^2 1歳児: () 人 クラス数: () →1クラス当たり平均 () m^2 2歳児: () 人 クラス数: () →1クラス当たり平均 () m^2 3歳児: () 人 クラス数: () →1クラス当たり平均 () m^2 4歳児: () 人 クラス数: () →1クラス当たり平均 () m^2 5歳児: () 人 クラス数: () →1クラス当たり平均 () m^2

1-5. 施設全体の部屋についてお聞きします。以下より、施設にある部屋は□に✓を記入し、その部屋の室数/箇所数、面積 (複数ある場合は合計) をご記入下さい。

保育室 □: () 室	乳児室 □: () 室
ほふく室 □: () 室	遊戯室 □: () 箇所, () m^2
ホール □: () 箇所, () m^2	職員室 □: () 箇所, () m^2
便所 □: () 箇所, () m^2	倉庫 □: () 箇所, () m^2
その他 () 室: () m^2	その他 () 室: () m^2
その他 () 室: () m^2	その他 () 室: () m^2

1-6. 施設の定員および本年度 (2008 年度) の職員数、園児数

園児数: 現員合計: () 人 定員: () 人

職員数: 保育職フルタイム () 人 保育職パートタイム () 人

保育職以外 (管理・調理・清掃・送迎など) () 人



1-7. 施設の各場所に関する印象をお伺いします。最も近いものに○をつけて下さい。

	非常に そう思う	そう思う	どちらで もない	そう思う	非常に そう思う	
①園庭など (屋根がかかっていない) 屋外の遊び場	広い					せまい
②建物全体	広い					せまい
③遊戯室 (またはホール)	広い					せまい

④半屋外空間 (屋外だが屋根のかかっている場所) はありますか。

ない	ある		
	便利	不便	使っていない

「不便」「使っていない」理由をご記入下さい。

↑いずれかに○

2. 保育室についてお答え下さい。

■■以下、ご自身が担当しているクラスの保育室での活動や印象についてお答え下さい■■

2-1. 担任しているクラスの名称： ←「〇〇組」「〇〇クラス」など2-2. その保育室を使っている園児の学齢： 歳2-3. その保育室の定員： 人2-4. クラスの園児数：男子： 人、女子： 人2-5. クラスの担任数： 人→うち特別支援担任： 人

2-6. クラスの現園児数（＝処遇規模）について、こどもを保育する側からどのような印象をお持ちか、最も近いものに○をしてください。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思う	非常にそう思う
人数が多い (規模が大きい)					
人数が少ない (規模が小さい)					

2-7. 部屋の面積： (m²・畳) ←単位を選んで○で囲んでください

2-8. 以下の活動を行う際の保育室の印象として、保育者（ご自身）と園児のそれぞれの立場から最も近いと思うものに○をしてください。

		とてもせまい	せまい	ちょうどいい	広い	とても広い
①設定保育の時	保育者にとって 園児にとって					
②自由保育の時	保育者にとって 園児にとって					
③食事（昼食・おやつ）の時	保育者にとって 園児にとって					
④お昼寝の時	保育者にとって 園児にとって					
⑤延長保育で 利用する ☐ （いずれかに） 利用しない ☐	保育者にとって 園児にとって					

2-9. 保育室の様子についてご自身の印象に最も近いものに○をしてください。

	非常に そう思う	そう思う	どちらで もない	そう思う	非常に そう思う
① 落ち着いている					落ち着かない
② 開放感がある					圧迫感がある
③ にぎやか					さびしい
④ すっきりしている					ごちゃごちゃしている

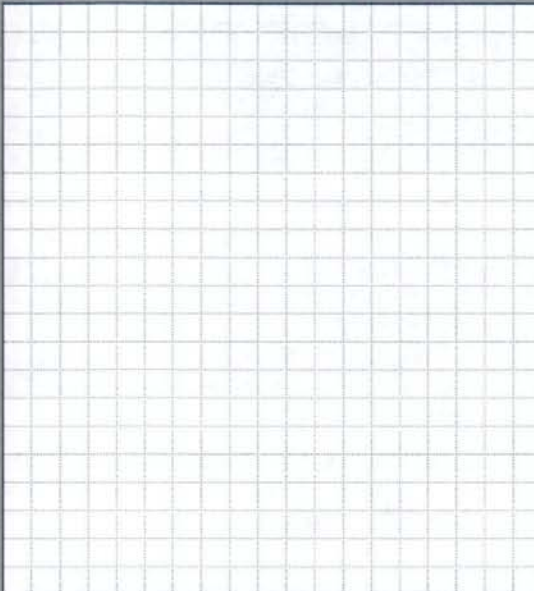
2-10. 保育室の天井の形状を以下の図より最も近いものを選んで記号を○で囲んで下さい。（平面形の天井の場合は、床から天井まで高さを記入してください）なお、図は空間を横から見た図（断面図）となっています（別紙「アンケート記入例」参照）。

a. 水平 高さ： m	b. 傾斜	c. その他
		

2-11. その保育室の天井の高さの印象として、保育者と園児のそれぞれの立場から最も近いと思うものに○をしてください。

		とても低い	低い	ちょうどいい	高い	とても高い
保育室の天井の高さ	保育者にとって					
	園児にとって					

- 2-12. その保育室に家具などでしつらえているコーナーはありますか。ある場合は、そのコーナーの名前（機能）と広さをご記入下さい。また別紙の「アンケート記入例」にならって右下の枠の中に保育室の見取り図（部屋の中のコーナーの大まかな位置）をご記入下さい。

① () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
② () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
③ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
④ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
⑤ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
⑥ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	

- 2-13. 保育室内にしつらえられているコーナーの数は、こどもたちの遊びの様子からみてどのような印象ですか。

	ない	ある				
		少なすぎる	少ない	ちょうどいい	多い	多すぎる
コーナーの数						

- 2-14. 食事・おやつや午睡（お昼寝）のための場所はどこですか。保育室内の場合は、2-12で回答したどのコーナーで行うかを教えてください（別紙「アンケート記入例」参照）。

①食事・おやつのための場所

いずれかに○↓

保育室以外	室名:	
保育室内	2-12の()コーナーの場所を片付けて行う	
	2-12に描かれた図中の☆印の場所を利用	

②午睡（お昼寝）のための場所

いずれかに○↓

保育室以外	室名:	
保育室内	2-12の()コーナーの場所を片付けて行う	
	2-12に描かれた図中の★印の場所を利用	



質問は次のページも続きます。→

3. 園児の活動についてお答え下さい

3-1. 保育室の中で園児が現在よく行っている遊びはなんですか、以下より多く見られるものを選び、記号を○で囲んで下さい(3つまで)。

- | | | |
|---------------|-------------------------|------------|
| A. 読書・読み聞かせ | B. 制作(工作・粘土・折り紙など) | C. お絵かき |
| D. 積み木・ブロック遊び | E. 其他のおもちゃ遊び、道具・物を使った遊び | |
| F. 追いかっこ | G. ままごと遊び | H. 其他ごっこ遊び |
| I. お遊戯・ダンス・体操 | J. 其他:() | |

3-2. 保育室で行われる園児の遊びのうち、よく見られる集団の規模はどのくらいですか、以下より近いものを2つ選んで記号を○で囲んでください。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| A. 1人であそぶ | B. 2～3人であそぶ | C. 4～6人であそぶ |
| D. 7～9人であそぶ | E. 10人以上であそぶ | |

3-3. この学齢の園児に最も適した保育集団の人数(=それぞれの学齢の保育に適した人数)は何人程度とお考えですか、およその数字でお答え下さい。

およそ()人

3-4. この保育室で保育する際に適していると思われる人数(=部屋の大きさに適した人数)は何人程度とお考えですか、およその数字でお答え下さい。

およそ()人

4. このアンケートは、保育施設における所要室規模(広さなど)に関する知見を得ようとするものです。現在お使いになっている施設の中で早急にその規模(広さ)を見直す必要がある、と感じている場所がありますか、ございましたら、以下にその場所とそう感じる理由をご記入下さい。

5. 今後の研究活動として、いくつかの施設での詳しい調査を検討しています。その一環で御施設の見学・調査をお願いすることがある場合、ご許可いただけますか。

見学・調査を(許可する・許可しない) ←いずれかを○で囲んでください



▲▼質問は以上です。ご協力ありがとうございました▼▲

保育・生活場面の展開と心身や空間把握能力の発達からみた保育施設環境の所要規模に関する研究」研究グループ

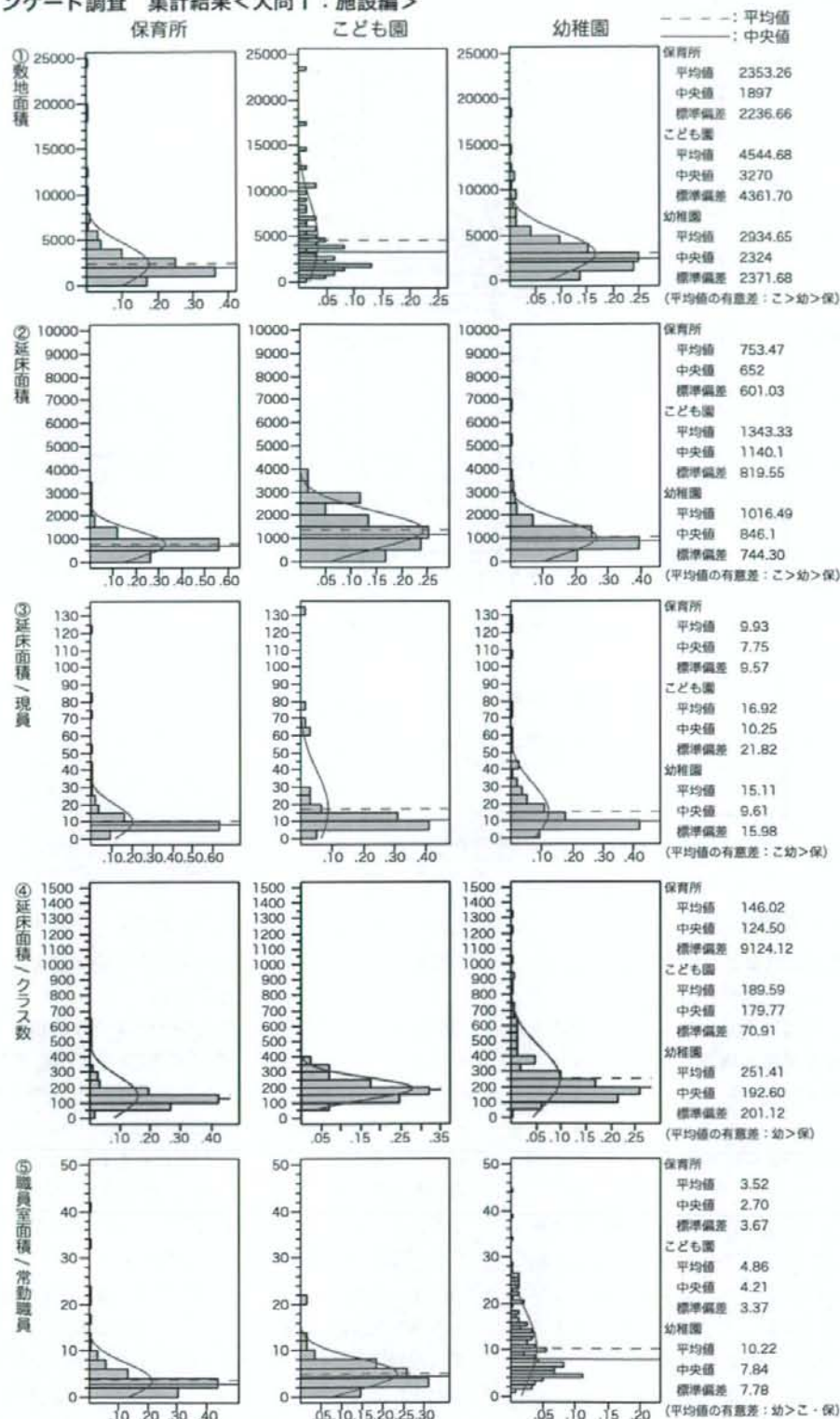


図1-1 施設の状況

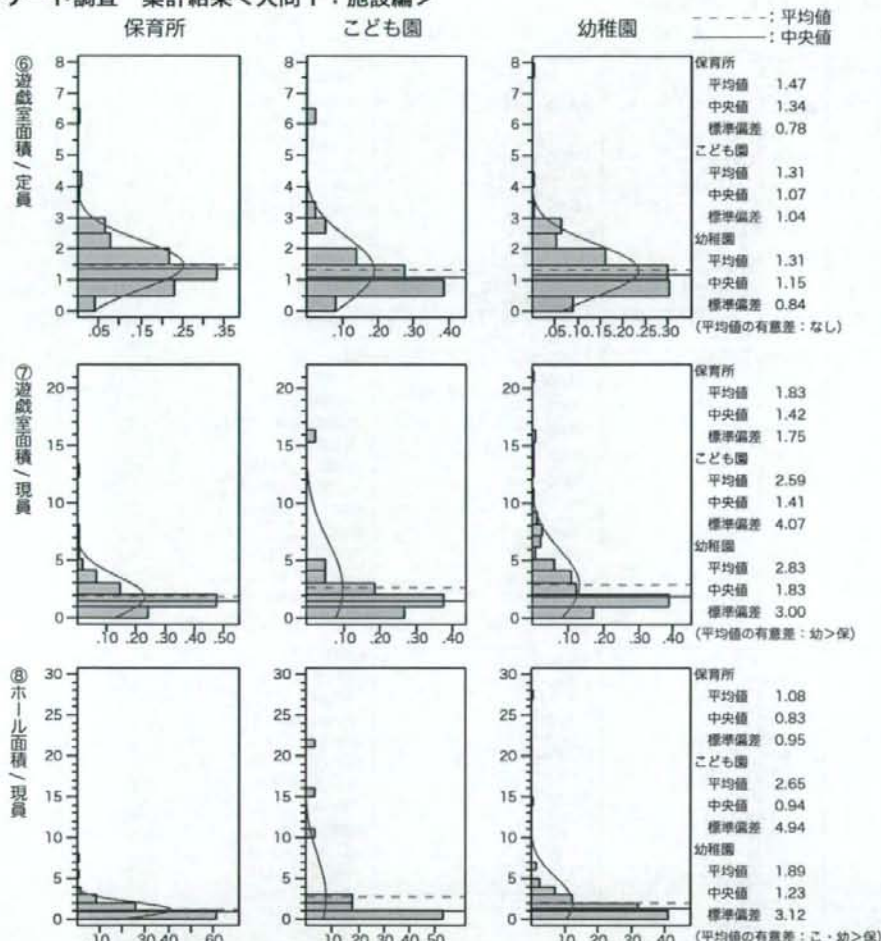


図1-2 施設の状況

■大問1：施設について（補足）

- ①敷地面積、②延床面積などは保育所が比較的小規模な結果となっており、幼稚園、こども園は規模が大きい。特に設立経緯により、保育所型、幼稚園型、幼保連携型などと多様な施設形態となっているこども園は分散も大きい。
- ③現員1人当たりの延床面積は、本編でも述べたとおり保育所（9.93 m²/人）で他の施設よりも小さい値を示している（有意差有り）。また、本編3ページ目の表3に示すように延床面積/定員では有意差が見られなかったが、④1クラスあたりの延床面積では、幼稚園と保育所の間で有意差（幼＞保）が見られた。幼稚園の設置基準（1クラスあたりおよそ100 m²）と比較すると、保育所で約1.5倍、こども園で約1.9倍、幼稚園では2.5倍となっている。
- 本編4ページ目でも述べているように、職員室の

広さは、幼稚園、こども園で保育所よりも有意に広がっている。⑤常勤職員1人あたりの面積で比較するとその差はさらに顕著である。

- 遊戯室の広さの差は本編3ページ目表3に示したとおりであるが、遊戯室面積を定員数で除した結果（⑥）では有意差は見られず、設計時に計画される児童1人あたりの遊戯室面積は、1.3～1.5 m²程度と施設種別により大きく変わらないことが分かる。しかし、実際に施設を利用する児童数（＝現員）1人あたりの遊戯室の面積（⑦）では、幼稚園と保育所の間に有意差（幼＞保）が見られる。
- 現員1人当たりのホール面積（⑧）は、保育所、幼稚園で遊戯室よりも狭い。ホールを遊戯室と兼用する場合を想定し、ホールと遊戯室の面積の関係をみたが、こども園と幼稚園で弱い（R²=0.2程度）正の相関が見られる程度であった。

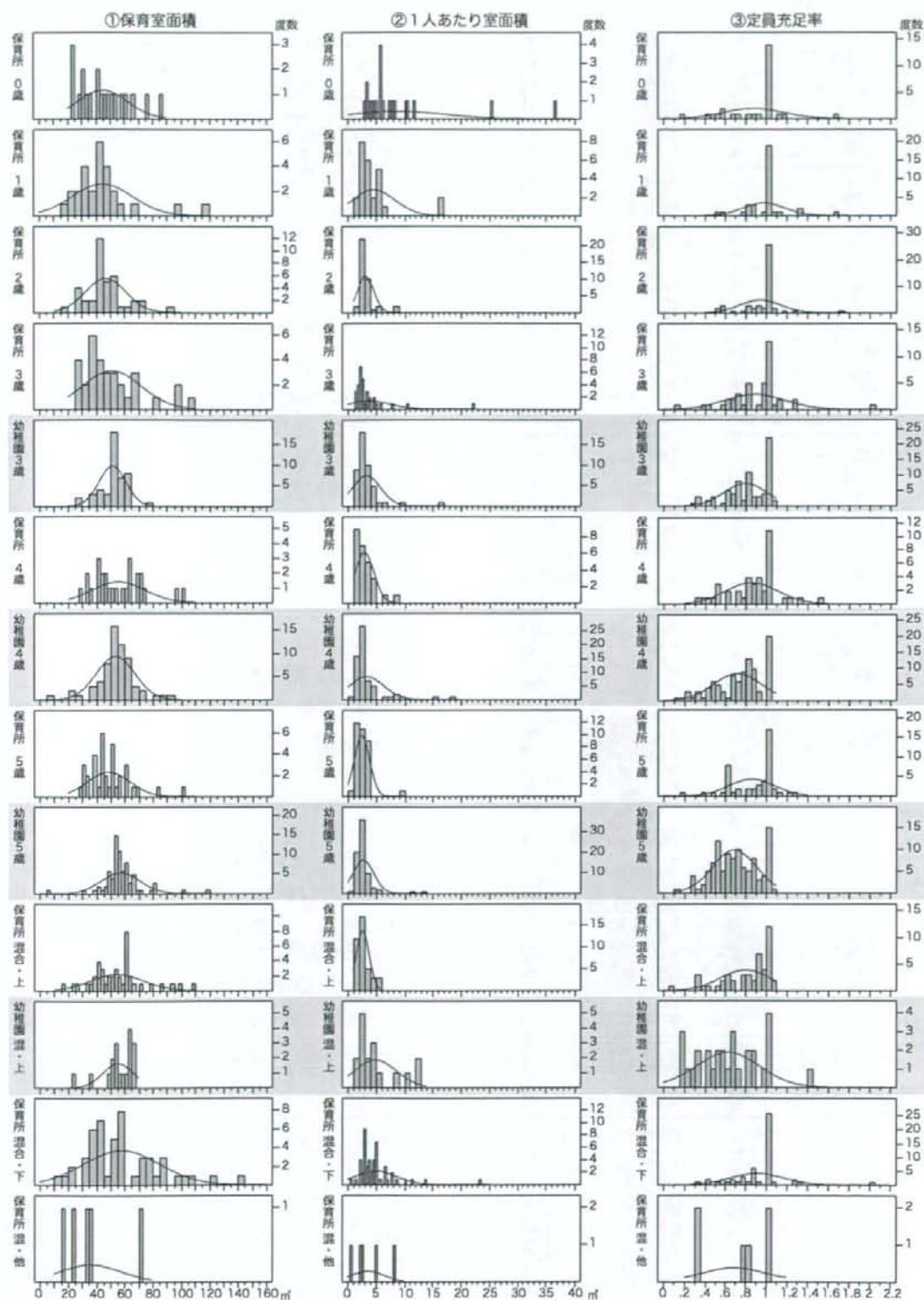


図2 保育室の面積と定員充足率

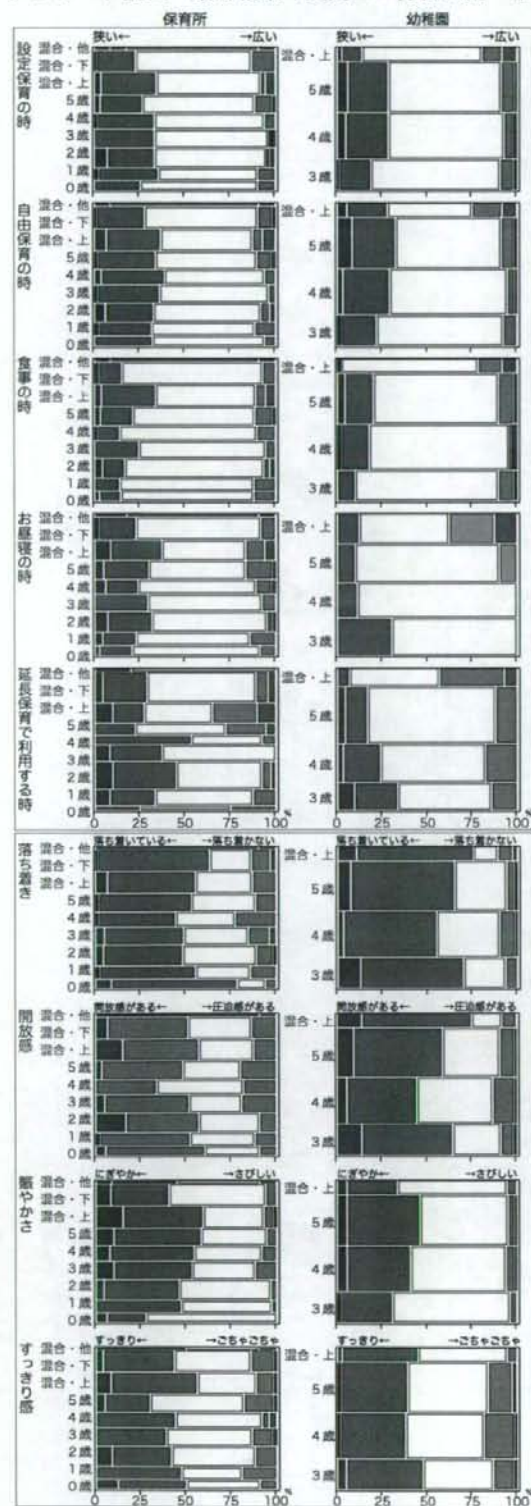


図3 保育者から見た保育室の印象評価

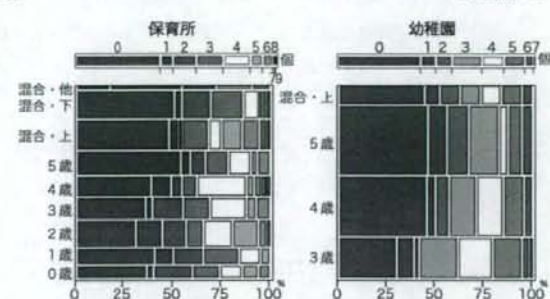


図4 保育室内のコーナー設置数

■大問2：保育室について（補足）

- 図2①保育室の面積は、40～60㎡あたりが最も多く、比較的低学齢クラスの方が各例の高いクラスの保育室よりもばらつきが大きい。
- ②1人あたりの保育室面積は乳児では1人20㎡を超える例も散見された。3歳以上では、保育所、幼稚園共に2～3㎡/人が最も多く、保育所の1人あたり基準（2歳以上は1人につき1.98㎡以上）を満たすつくりになっている。
- 本編でも述べたとおり、図2③定員充足率は保育所で幼稚園より高く、定員を超えて児童を受け入れている施設も散見できる。
- 図3は、活動場面毎に保育者の立場での担当する保育室の印象を訪ねた結果である。広さに関する評価では、いずれも若干保育所の方が「狭い」側に評価しているが、評価の有意な差は見られなかった。いずれの項目においても「ちょうどいい」の回答が最も多いが、これは保育者は客観的視点で利用している部屋を評価する機会があまりないため、現状の広さに対応した活動を展開することから、「広い」「狭い」などの評価がしにくいものと推察される。
- 落ち着き、開放感などの保育室の印象評価については、広さに関する評価よりもやや傾向が見られ、いずれの項目においても、自分が利用している保育室に対しては、プラスの印象がマイナスの印象よりも多いといえる。
- 図4は、利用している保育室内のコーナーの状況を平面図とコーナー名称により記載してもらった結果より、記載されているコーナー数を集計したものである。これより学齢別、施設種別による特徴などは現れなかったが、今後はそれぞれのコーナーの機能、広さなどからさらに分析をする予定である。

項目	保育所	幼稚園
所轄	厚生労働省・市町村	文部科学省・国立：文部科学省 ・公立：教育委員会 ・私立：都道府県
対象	保育に欠ける乳幼児 乳児：1歳未満 幼児：1歳から小学校就学まで (児童福祉法第4条, 39条) 市町村は保育に欠ける乳幼児の保育が義務となっている	満3歳～小学校就学まで (2歳児の保育実施も可) (学校教育法第80条)
入所・入園の 手続きと条件	市町村が条例に沿って「保育に欠ける」と認められた児童 申込み：保護者→市町村	保護者の判断により幼児教育を希望した場合 申込み：保護者→園設置者
入所入園時期 退所退園時期	保育に欠けた状況が発生した時 保育に欠けた状況がなくなった時	一般に年度の初め(4月)～年度終わり(3月) 満3歳の誕生日から入園可能(2歳児の保育実施も可)
保育時間	原則8時間 ただし家庭の状況に応じて変更可能(夏休み・春休みはなし)	4時間を標準とし、原則年間39週を下回ってはならない。(預かり保育により延長可能)
保育者の資格	保育士資格証明書(児福法施行令第13条)	幼稚園教諭普通免許状(教育職員免許法)
設置の基準 運営の基準	児童福祉施設最低基準第32条(厚生労働省令) (児童福祉法第45条)	学校教育法施行規則第74～77条 幼稚園設置基準(文部科学省令) 学校教育法第3条
保育者の配置	保育士1人に対し ・0歳児…3人 ・1, 2歳児…6人 ・3歳児…20人 ・4, 5歳児…30人	1学級あたり幼児35人以下とし、1学級に1人以上の担任教諭を配置する
建物に関する 基準(抜粋)	保育室または遊戯室 ・0歳児：1人につき4.95㎡以上 ・1歳児：1人につき3.30㎡以上 ・2歳児以上：1人につき1.98㎡以上 乳児室 満2歳に満たない幼児 1人につき1.65㎡以上 ほふく室 満2歳に満たない幼児 1人につき3.30㎡以上 構造 乳児室、ほふく室、保育室又は遊戯室を2階以上に設ける場合は耐火建築とするなどの構造及び仕上げ材の制限が設けられる。	園舎の面積 ・1学級：180㎡ ・2学級以上：320+100×(学級数-2)㎡ 構造 園舎は2階以下を原則とし、保育室、遊戯室及び便所は、一階に設置する。これらの室を階に設置する場合は、耐火建築であることなどの制限が設けられる。

■■認定こども園の基準など■■

平成18年10月よりスタートした「認定こども園」制度については、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」を根拠法令とする。施設の整備などについては、幼稚園、保育所の各基準に準拠する形で進められている。以下、幼保連携推進室(厚生労働省・文部科学省)ホームページより抜粋。

- 幼稚園、保育所等のうち、認定基準を満たす施設は、都道府県知事からの認定により「認定こども園」とすることが出来る
- 職員配置：0～2歳児については、保育所と同様の体制
3～5歳児については、学級担任を配置し、長時間利用児には個別対応が可能な体制
- 職員資格：0～2歳児については、保育士資格保有者
3～5歳児については、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が望ましい
- 入園手続き：認定こども園の認定を受けた施設は、保育所であっても、利用者と施設との直接契約による利用となり、利用者は利用料を直接施設に支払う

活動時の使用面積と保育者による広さ感評価からみた 保育施設の適正規模算出に関する試論

分担研究者：山田あすか（立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 講師）

協力研究者：宮本 朋和（立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 学部生）

本稿では、幼稚園・保育所を対象とし、園児の活動実態に基づいて、保育室の面積と保育者による広さ感評価の関係を分析し、保育室の面積規模の基準を導出することを目的とし、園児の活動実態からみた保育室の適正規模算出についての試論を示した。3～5歳児室での観察調査、保育者からの評価に関するヒアリング調査を行った結果、一部に各年齢、各活動でのクラス面積・1人あたり面積での評価境界を見いだした。今回の調査では事例数が少ないため、保育室全体やそれぞれの場面に適した面積を正確に導き出すことはできなかったが、保育室の適正規模の算定にあたっては、保育室全体の1人あたり面積のみならず、実際に遊びに使用される面積を十分に確保されるような誘導や設えの重要性が指摘できた。

A. 研究目的

就労等、男女が共同して社会に参画する社会システムの実現や、核家族化のすすむなかでの子育てと社会参画の両立の実現のため、保育施設の拡充が切望されている。とりわけ、就学前の保育施設は特に都市部において不足が指摘されているものの、保育所は待機児童問題、幼稚園は空き教室問題を抱えるなど両者のニーズ乖離は明らかである。こうした問題を解決するため、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ「認定こども園」が法制度化されたが、その設置基準には地方裁量・自治体裁量の名の下に曖昧な点が残る。

そもそも、現在の就学前保育施設の人的・面積的規模には、「畳」単位に由来すると思われる数値が散見されたり、充足すべき面積の根拠が示されていないなど、明確な根拠に基づいて定められているとは言えない。また、保育所は児童1人あたり面積、幼稚園はクラス数あたり面積で基準がつくられており、両者の基準が統一されていないことは、認定こども園の基準の曖昧さや幼保一元化の妨げの一因ともなっている。

近年の保育ニーズの増加によってさらなる保育施設

の増加が見込まれ、乳幼児に適切な発達環境を保障しうる、幼保の一体化を見据えた適正規模の算出は急務の課題である。

本稿では、幼稚園・保育所を対象とし、園児の活動実態に基づいて、保育室の面積と保育者による広さ感評価の関係を分析し、保育室の面積規模の基準を導出することを目的とする。

B. 調査・分析概要

以下、調査対象施設の概要、調査対象施設の位置づけ、調査方法、活動面積範囲の抽出について述べる。

B. 1 調査対象施設の選定

本稿の調査対象は、全国の幼稚園・保育所へのアンケート調査を元に、保育室面積とクラスの園児人数（園児1人あたり面積）の分布を作成し、それぞれの平均値以下・以上の4類型から調査対象を選定するという方式により抽出した（図1）。保育所の場合には、保育室面積とクラスの園児数にはおおまかに比例の関係

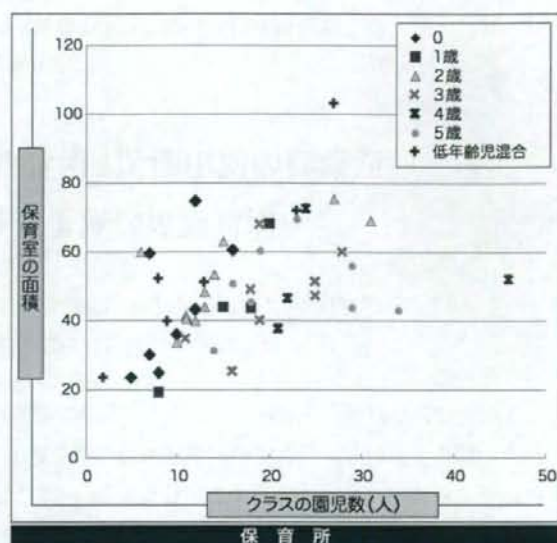
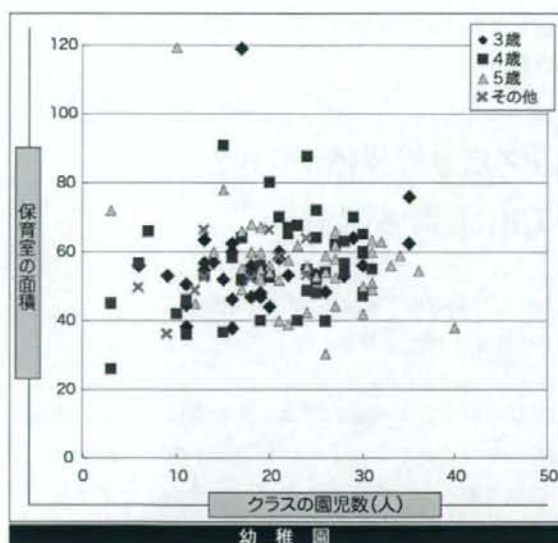


図1 調査対象施設の選定にかかる全国の保育施設規模分布

表1 調査対象施設概要

施設区分	幼稚園						保育所		
調査対象施設	Hy	Py	Ey	Sy	Ny	My	Kh	Yh	Hh
調査日	20.10.08	20.10.22	20.10.02	20.09.29	20.09.22	20.11.25	20.11.28	20.11.07	20.11.04
所在地	滋賀県 愛荘町	大阪府 大阪市	滋賀県 東近江市	大阪府 枚方市	大阪府 大阪市	奈良県 磯城郡	滋賀県 草津市	大阪府 大阪市	大阪府 高石市
調査時間	9:00～ 14:00	9:00～ 14:00	9:00～ 14:00	9:00～ 14:00	9:00～ 14:00	9:00～ 14:00	9:00～ 16:00	9:00～ 16:00	9:00～ 16:00
設立年	1984	1953	1963	1972	1983	1965	1971	1980	1968
建物の建築年	24	32	16	36	25	43	19	28	41
敷地面積 (m²)	2824.05	2700	2476	2071	2574	929.25	1112.44	909.8	2203
延べ床面積 (m²)	719	1128	622	1460	1043	557	1013.84	746.65	997.74
園児数 (人)	41	414	72	83	161	102	101	135	156
対象保育室 数及び現員	5才 4才 3才	1,18 1,36 1,22	1,29 1,20 1,23	2,26,26 1,31	1,24 1,30	1,15 1,18 1,18	1,24 1,17	1,27 1,26 1,26	1,26 1,28 1,28

	Hy	Py	Ey	Sy	Ny	My
3歳児						
4歳児						
5歳児						

図3 調査対象保育室平面図

があることがわかるが、幼稚園の場合には、保育室面積とクラスの園児数には比例の関係は見られず、40～70 m²程度の保育室面積の領域に、幅広い園児数の事例が存在する点が特徴的である。これは、同じ面積でも保育人数が異なり、園児1人あたり面積にばらつきが大きいことを意味する。なお、この調査対象施設の選定は関東地域、東海地域、関西地域の3地域で、それぞれ10施設程度を目安として行った。本稿では、関

西地域での調査結果を基に、園児の活動実態からみた保育室の適正規模算定についての試論を示す。

B. 2 調査対象施設の概要

調査対象とした幼稚園6施設と保育所3施設についての施設概要を表1に記し、調査対象施設の保育室面積・園児数分布一覧を図2に示す。それぞれの施設で、学齢ごとに複数のクラスがある場合は、そのうち典型

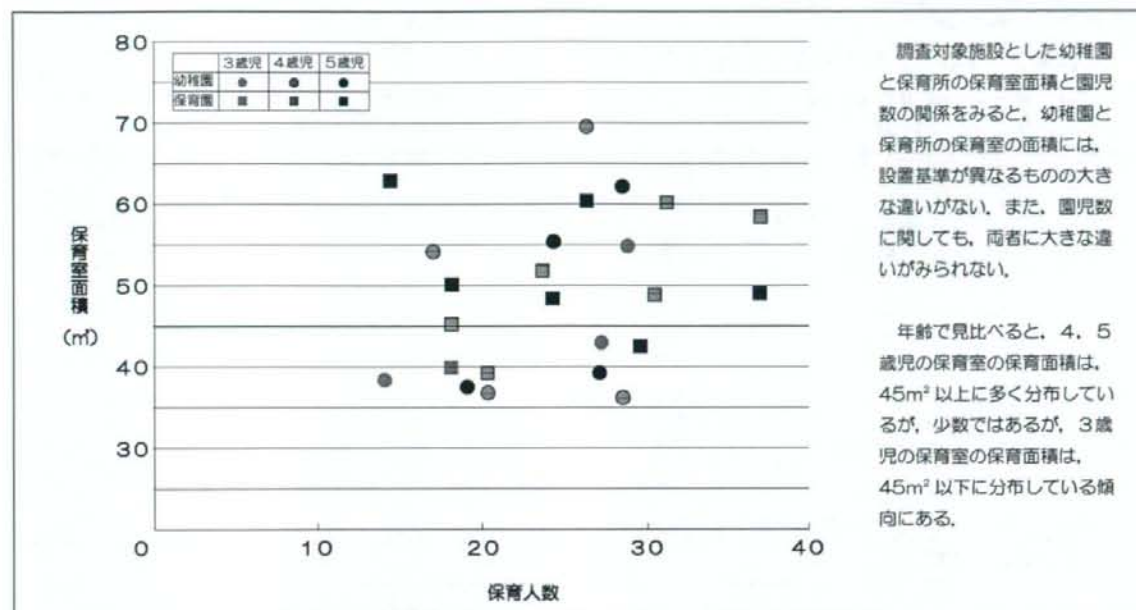


図2 調査対象施設の保育室面積・園児数分布一覧

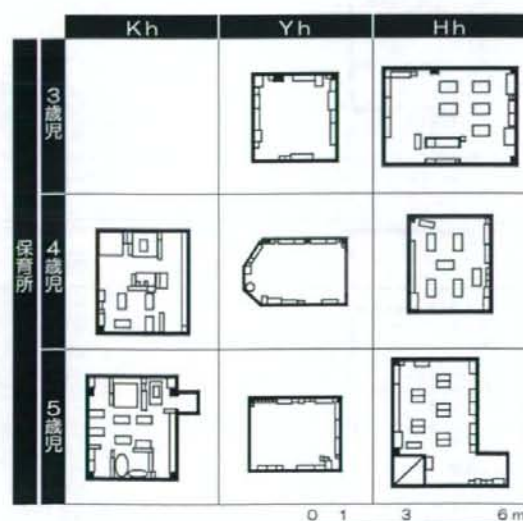


表2 調査方法

調査方法	
1) 保育室でのコーナー等の設え実態についての調査	各保育室について、その場で簡易に作成した平面図に、家具の大きさを記録する。
2) 保育室での活動実態についての調査	①遊び、食事、午睡がどこで行われているかを把握する。 ②調査は、写真撮影・平面図へのメモによるものとする。 ③調査基本保育の時間中施設に滞在し、30分に1回のペースで施設内を巡回し、各保育室の様子を記録する。
3) 保育室の広さ、コーナー設えについての評価の調査	①その保育室の定員と現員を把握する。 ②その保育室を担当している保育者に、保育室の広さについて評価してもらう。

※保育室の広さについての評価では遊びの場面、食事の場面、午睡の場面でとてもせまい、せまい、ちょうどいい、広い、とても広いの5段階で評価してもらう。

的な設えおよび活動と判断した1クラスを施設運営者に選定していただく方式で、基本的には1学齢1保育室の調査を実施した。この調査は、許可をいただいた保育室に限って実施したため、また幼稚園では0～2歳の部屋をもたないため、データが得られた年少児室の事例が少ない。このため、本稿での分析対象は、3～5歳児室とする。なお、これらの年齢では幼稚園と保育所で施設設置基準が異なるものの、分布に明確な違いがみられない。このため、幼稚園と保育所での結果を総合して論を進める。

また、調査対象保育室の平面図(図3)をみると、家具やコーナーのつくりなどの保育室内の設えは、1

つの施設内での年齢による違いは小さく、それぞれの施設間での違いが大きいがわかる。

B. 3 調査方法

調査では、観察調査とヒアリング調査を以下の要領で行った。

- ①各保育室について、その場で簡単な平面図を作成し、家具の大きさを記録する。
- ②30分に1回程度のペースで施設内を巡回し、各保育室の様子を、写真撮影と平面図への付記で記録する。
- ③保育室を担当している保育者が、保育室の広さを、

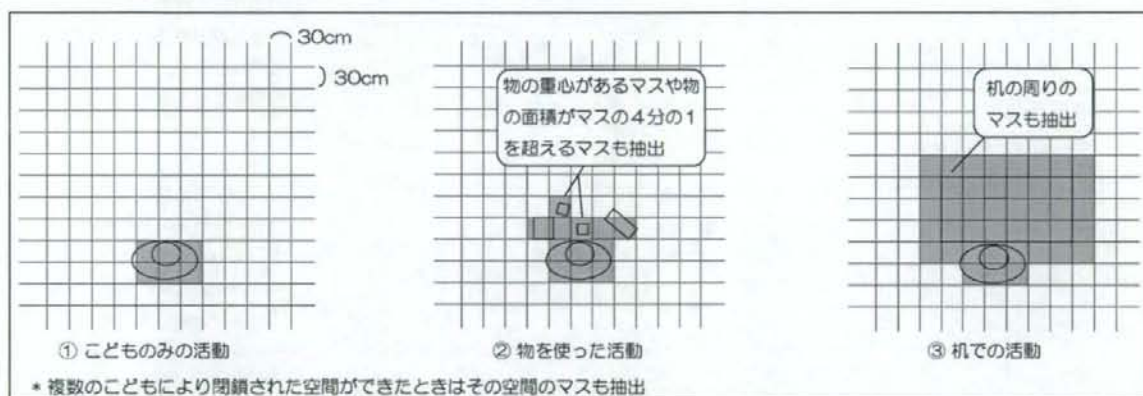


図4 活動範囲の定義

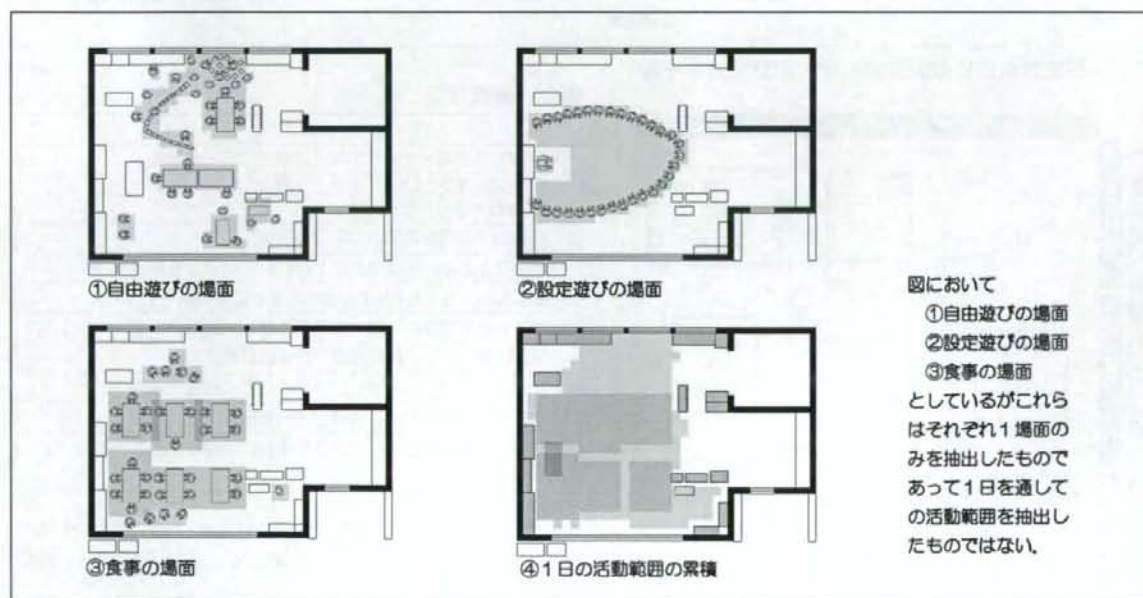


図5 各活動場面面積の抽出

食事場面と遊び場面についてそれぞれ評価する。

観察調査時間は、対象施設での基本保育時間とし、幼稚園で9時～14時、保育所で9時～16時である。詳細な調査方法については、表2に記載する。また観察調査で記録した活動を遊び、食事、午睡、に分類しそれらの活動の1日の累積を以後の分析の際に活用することとする。

なお、それぞれの活動場面での評価においては、「広すぎる」「やや広い」「ちょうどいい」「ややせまい」「せますぎる」との5段階で評価を収集した。これらの評価に、それぞれ5～1の数値を便宜的に割り付け、数値に置き換えて分析を行う。例えば、和を用いない評価では3が「ちょうどいい」、2が「せまい」という評価を意味する。

B. 4 活動面積範囲の抽出

活動範囲の抽出に際しては、図面上に機械的に30×30cmのグリッドをおいた(図4)。これによってできるマス単位として、各保育室において1日の活動範囲をこどもの位置のプロットを元に30分ごとの各場面ごとに、面積が4分の1を超えるマスを抽出した。また、こどもが活動時に「物」を使用している場合の活動範囲の抽出としては、物の重心のあるマスとこれらが出している面積がマスの4分の1を超えるマスを抽出した。さらに、机での活動については30cm(1マス分)を活動範囲とみなした。複数のこども、活動に使用された物、コーナー設定に用いられた家具など

によって閉鎖された空間も活動面積として抽出した。

これらの活動範囲の抽出方法をもとに、Syの4歳児室において、実際の活動範囲を求めた経緯を、図5に例示する。図では、3場面(自由遊びの場面・設定遊びの場面・食事の場面)について活動範囲を抽出しているが、これらは1場面のみを抽出したものであって1日を通しての活動場面を抽出したものではない。本研究では、活動別に適正規模を算出していくが、その際に使う活動別の範囲は各活動での1日の活動範囲としている。

なお、活動面積規模の抽出に際しては、文献^{1) 2)}を参照した。

(倫理面への配慮)

本研究にあたっては、記録方法の一環として写真撮影手法を用いているため、記録時にはこどもの顔が極力写らないように努め、また分析においては個人が特定できない形でデータ化を行なった上で詳細な分析を行なった。

調査対象クラスの選定に際しては、対象施設の運営者および担任による指定を受けるものとし、例えばこどもへのマイナスの影響が予想されるクラスにおける調査は実施しなかった。

C. 研究結果

調査で得た結果をもとに1人あたりの保育室面積と

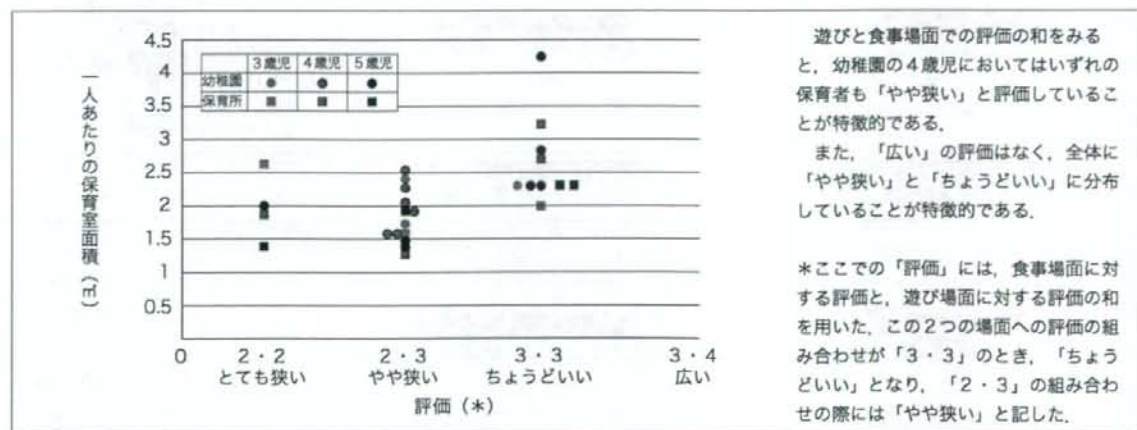


図6 保育室の1人あたり面積と評価の関係

広さ感評価との関係、保育室面積に占める各活動での使用面積、各活動面積と広さ感評価の関係、園児1人あたりの遊び面積・空き面積・その他面積の割合と評価の分布、1人あたりの遊び面積と1人あたりの保育室面積の関係について述べる。

C. 1 園児1人あたりの保育室面積と広さ感評価との関係

1人あたりの保育室面積と保育者の広さ感評価について述べる。図6は、保育室の1人あたり面積と保育者による広さ感評価の関係を示している。評価には、保育者による遊び／食事場面での評価の和を用いた。「広い」の回答はなく、「ちょうどいい」と評価した事例は、図より1人あたり保育面積が2.0㎡以上である。同時に1人あたり保育室面積が2.0㎡以上ある保育室でも「せまい」と評価している事例が複数みられる。これらから1人あたりの保育室面積だけでは保育室の適正規模を算出することが困難であるということがわかる。

C. 2 保育室面積に占める各活動での使用面積割合

上記により、単純に1人あたり保育室面積では基準が導出できないため、活動実態に即して適正規模を考察する。

まず、図7に保育室面積に占める各活動での使用面

積割合を示す。保育室内の面積を、グリッドを元に食事、遊び、午睡、生活スペース、空スペース、管理スペースの6つの活動に使われた面積で数え上げ、それらの保育室内での1日を通しての割合を表す。棒グラフで凡例が重なっている箇所は、複数の活動で使われた面積を示す。図中では幼稚園と保育所、3～5歳児の6つに分類しそれぞれに該当する保育室内での平均をグラフにした。なお、生活スペースとは柵など収納するための空間あり、空スペースとは使用されていない空間や動線として使用される空間、管理スペースとは、おもに保育者が使用する空間である。

この整理の結果、食事面積、午睡面積は1日でみると遊び面積に概ね含まれており、また管理スペースの占める割合も少ないことがわかる。よって保育室内の面積は遊び、生活、空き面積でほとんどを占めているといえる。

C. 3 園児1人あたりの遊び面積・空き面積・その他面積の割合と評価の分布

図8に園児1人あたりの遊び面積・空き面積・その他面積の割合と評価の分布を示す。1人あたり遊び面積と空き面積、その他面積の3つの割合を百分率で表した。その他面積には食事のみに使用された面積、生活スペース、管理スペースが含まれる。ここでの評価は遊びの場面での保育者の広さ感評価を使用している。

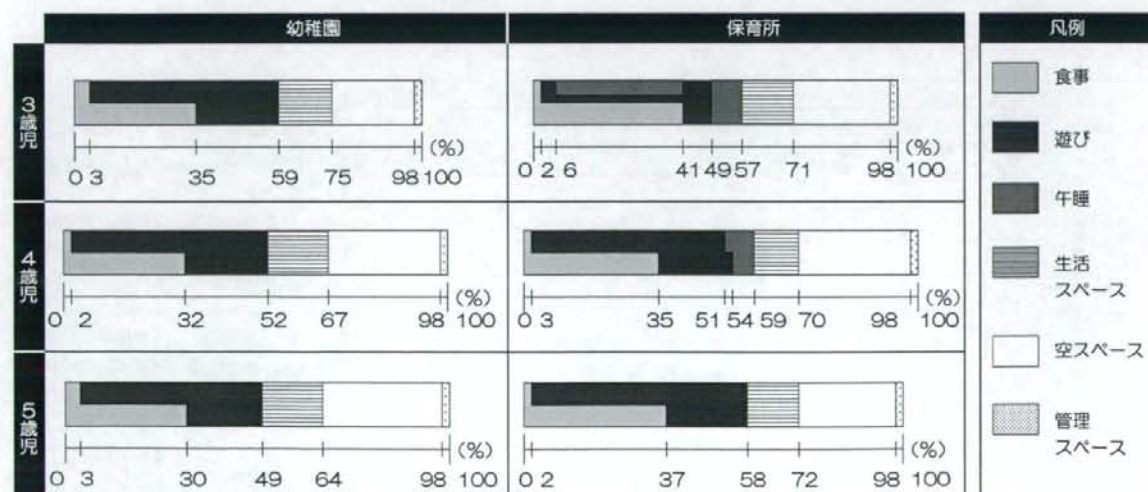


図7 保育室面積に占める各活動での使用面積割合

3歳児クラスにおいては幼稚園、保育所ともに比較的散々と分布している。1施設を除いて、1人あたりの空き面積が約20～25%の間で、それぞれ同じ程度のパーセンテージである。

4歳児クラスにおいては幼稚園、保育所それぞれにおいて評価の特徴がみられないが、すべての施設において、1人あたりの遊び面積の割合が一番高く、1人あたりのその他面積の割合が一番低いという分布の特徴がみとれる。

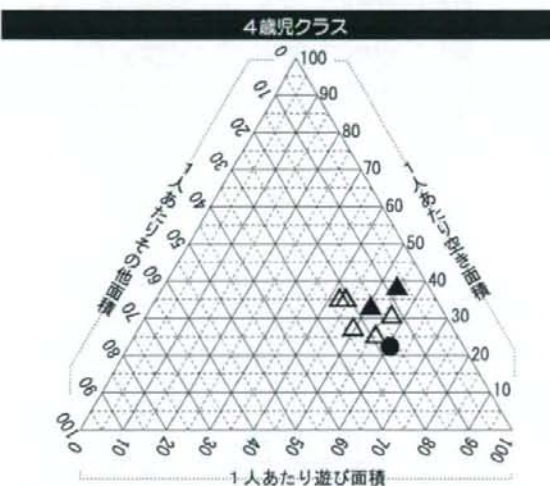
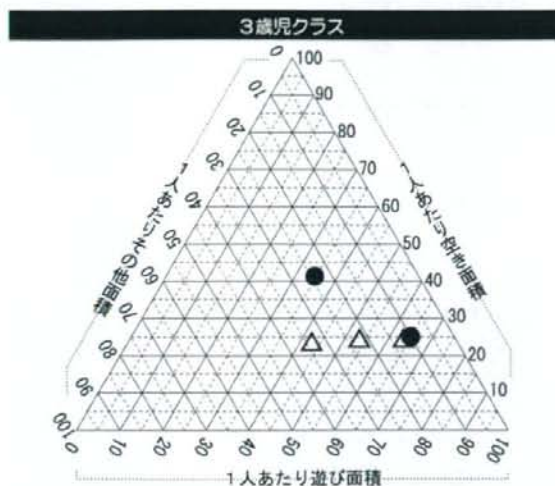
5歳児クラスにおいては、1人あたりの遊び面積が3歳児、4歳児クラスに比べて幅広く分布している。また、幼稚園の「ちょうどいい」の評価が1つに集中

している。

クラスごとに評価の分布に一定の傾向は見られるものの、明らかな差異とまでは言い切れず、活動面積割合と評価に明確な関係性は見られない。すなわち、保育室の面積のうち何割が定位的な活動がおこなわれない空きスペースとなり、何割が活動に使われる面積か、といった評価の構造は明らかではない。

C. 4 各活動面積と広さ感評価の関係

保育者に広さ感評価をしてもらった遊びの場面、遊びのみの場面、食事の場面、空き面積の場面の面積、1人あたり面積と広さ感評価との関係について述べる。



1人あたりの遊び面積・空き面積・その他面積の割合を百分率で表した図である。

3歳児クラスでは、比較的散々と分布している。

4歳児クラスでは、すべての施設において、遊び面積＞空き面積＞その他面積の関係が読み取れた。

5歳児クラスでは、遊び面積が3歳児、4歳児クラスと比べて幅広く分布している。

	ちょうどいい	せまい
幼稚園	○	△
保育所	●	▲

図8 園児1人あたりの遊び面積・空き面積・その他面積の割合と評価の分布

なお、ここでの評価では、3 = 「ちょうどいい」、2 = 「せまい」の評価を意味する。また、「1人あたり面積」=「水回りを除く保育室面積÷保育人数 (㎡/人)」である。水回りは、それぞれの保育室によって設置状況が異なる。そこで、分析の公平を期するため水回りが保育室内にある場合にはその面積を分析対象面積か

ら除くこととした。

1) 食事場面の面積、1人あたり面積と広さ感評価との関係 (図9)

食事場面についての広さ感評価では、3～5歳児それぞれの年齢を通して「ちょうどよい」という評価が多い。4歳児においてはすべての事例で「ちょうどいい」

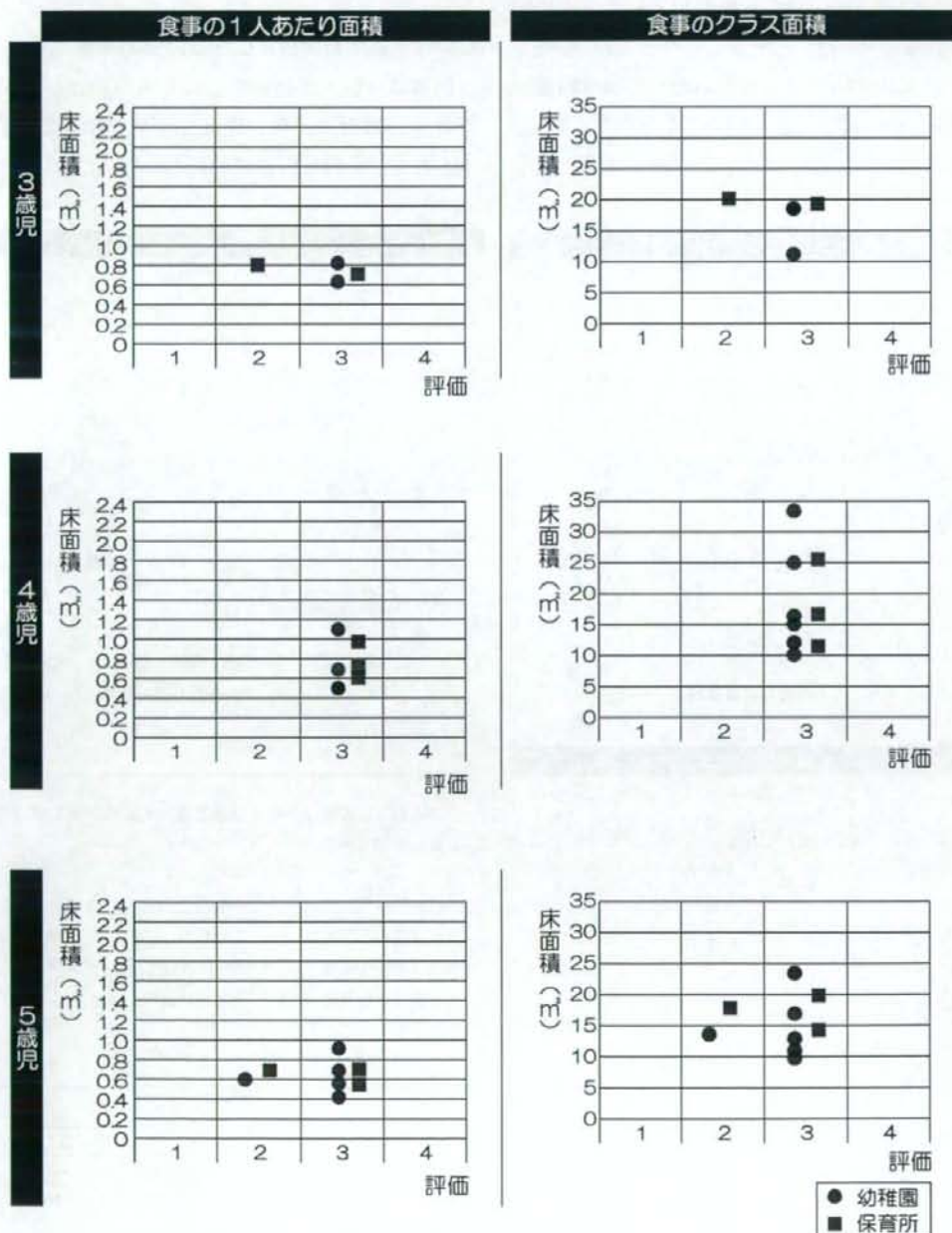


図9 食事場面の面積・1人あたり面積と評価の関係

と評価している。

このため、1人あたり面積、保育室面積ともに広さ感評価との関係を見ても両者には関係性は見いだせず、面積規模について特段の問題は生じていない。食事の面積はどの年齢においてもほぼ十分に確保されていると言える。

2) 空き面積、1人あたり面積と広さ感評価との関係(図10)

図は、空き面積と、遊び場面(自由遊び)での評価の関係を示している。食事の際には移動を伴わないため空き面積の有無はほぼ問題にならないが、自由遊び場面においては、こどもたちが自由に移動と滞在を繰

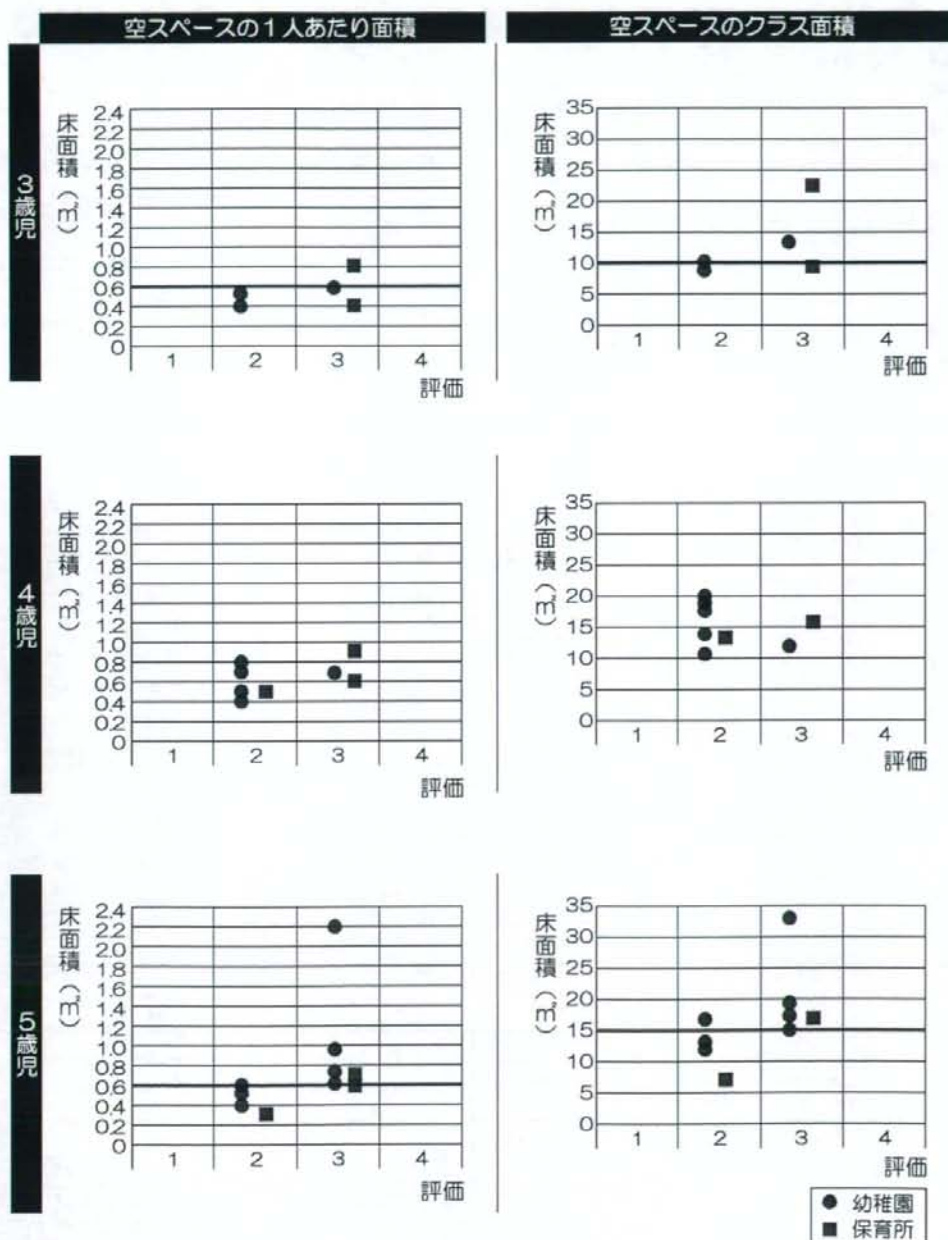


図10 空面積場面の面積・1人あたり面積と評価の関係

り返す。このため、空き面積の多少は、定位的な遊び活動場面についての評価にも影響を与える可能性があると予想した。

空き面積の評価においては3歳児と5歳児で1人あたり面積によって「やや狭い」と「ちょうどいい」という評価が別れている様子が分かる。この、評価の境

界となる面積の値を、以下では評価境界と呼ぶこととする。

3歳児においては空き面積のクラス面積と評価の関係で10㎡のところの評価境界をひくことができる。また、1人あたり面積と評価の関係では、幼稚園において0.6㎡のところの評価境界をひくことができる。

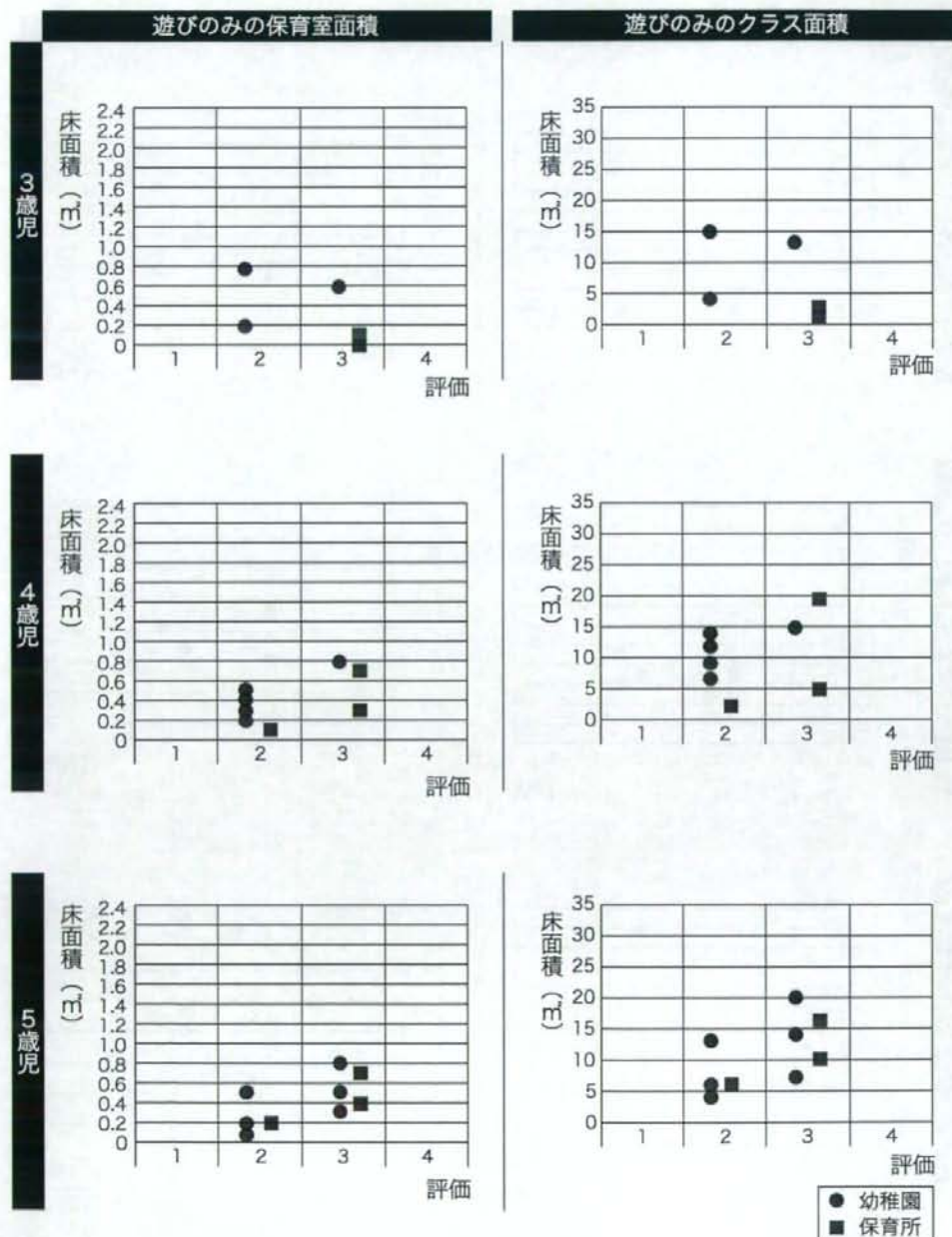


図 11 遊びのみ場面の面積・1人あたり面積と評価の関係

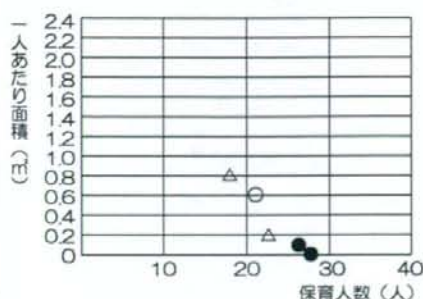
4 歳児においては空き面積のクラス面積、1 人あたり面積と評価には関係性が読み取れない。すなわち、明確な評価境界が存在しない。

5 歳児においては空き面積のクラス面積と評価の関係で 15 m² のところに評価境界をひくことができる。また、1 人あたり面積と評価の関係で 0.6 m² のところ

に評価境界をひくことができる。さらに、5 歳児では、保育所の 1 人あたり面積がわずかに幼稚園の 1 人あたり面積よりも全体に低い傾向があり、幼稚園と保育所の間で適正規模の基準が異なる可能性が見いだされる。しかし、実態に即して考えると幼稚園よりも長時間の滞在を前提とする保育所において、必要とされる 1 人

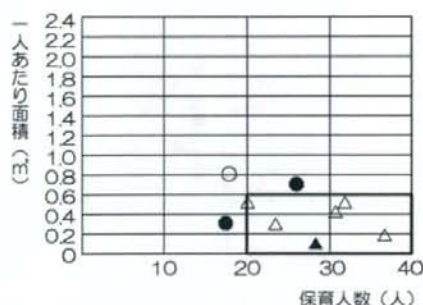
遊びのみの 1 人あたり面積

3 歳児



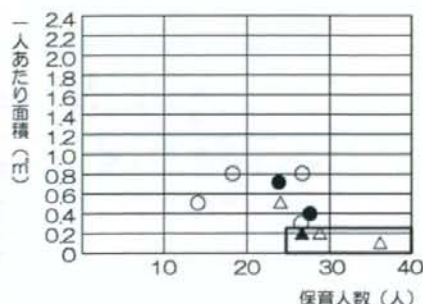
3 歳児においては特徴が読み取れない。

4 歳児



4 歳児においては、保育人数が 20 人以上で 1 人あたり面積が 0.6 m² 以下の場合、幼稚園、保育者ともにすべての施設が「せまい」と評価しているが、上記の範囲に含まれない施設では「ちょうどいい」と評価している。

5 歳児



5 歳児においては「ちょうどいい」の評価が多く、「せまい」と評価した 4 施設のうち 3 施設が保育人数 25 人以上で 1 人あたり面積が 0.2 m² 以下である。

評価	ちょうどいい	せまい
幼稚園	○	△
保育所	●	▲

図 12 遊びのみ場面 (保育単位) の面積・1 人あたり面積と評価の関係